

報道機関各位



GOOD
DESIGN
AWARD
2018

【ジオ四谷荒木町】

【まちづくり憲章のあるニュータウン [彩都]】

2018年度グッドデザイン賞を受賞

阪急阪神不動産株式会社（本社：大阪市北区／代表取締役社長：若林常夫）では、『ジオ四谷荒木町』及び『まちづくり憲章のあるニュータウン [彩都]』が、「2018年度グッドデザイン賞」（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞いたしましたので、お知らせいたします。

『ジオ四谷荒木町』は集合住宅部門での受賞、『まちづくり憲章のあるニュータウン [彩都]』は地域・コミュニティづくり部門での受賞であり、いずれも街づくり及びコミュニティづくりという当社が長年取り組んできた活動に対する受賞となります。

『ジオ四谷荒木町』は、地域のシンボリック的存在である大銀杏の木を保存するなど、「歴史」を継承しつつ、建物のデザインを現代的なデザインとし、それらが一体となった街並みを構成しているといった点が評価されました。なお、弊社のマンションブランド「ジオ」におきましては、9件目の「グッドデザイン賞」受賞となります。



『まちづくり憲章のあるニュータウン [彩都]』は、他の団体と一緒に当社が開発を担ってきた彩都西地区の街づくりについて、開発の計画段階から住民間のコミュニティが円滑に形成されるよう取り組むとともに、開発後も地元の自治会と緩やかに連携を図るという持続可能な長期的視点での取り組みが評価されたものです。



受賞内容の詳細は別紙

『グッドデザイン賞』とは

1957年に創設された日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の仕組みです。デザインを通じて産業や生活文化を高める運動として、国内外の多くの企業やデザイナーが参加しています。これまでの受賞件数は45,000件にのぼり受賞のシンボルである「Gマーク」は、よいデザインを示すシンボルマークとして広く親しまれています。

以上

【ニュースリリース配付先】

国土交通記者会、国土交通省建設専門誌記者会、青灯クラブ、近畿電鉄記者クラブ、大阪建設記者クラブ

◆ 本件に関するお問い合わせ先 ◆

阪急阪神不動産株式会社 総務人事部 担当：吉川、中野（土日祝定休）

TEL：06-6376-4660 / FAX：06-6376-4645

■ ジオ四谷荒木町

『ジオ四谷荒木町』の設計に際しては、地域のシンボリック存在として愛され、新宿区の保護樹木に指定された「大銀杏の木」と、敷地の東西を縦断する「貫通通路」を生かし、江戸時代から続くこの土地のコンテクストを継承することを意識しました。



また、再開発の進む「四ツ谷」駅から三栄通りに至る路の受けとなる丁字路の交差点部に、「2層吹抜エントランスホール」を配し、大銀杏の背景にはガラス面が印象的なファサードとし、新旧が交差する象徴的な「三位一体」のデザインを創出、ランドマーク性を演出しました。



— 審査員コメント —

大銀杏を継承し、その樹木を手掛かりに敷地内通路や、ラウンジを街のコーナーにデザインしている。継承と現代的なデザインが街並みとして生まれていることを評価した。

【ジオ四谷荒木町】 物件概要

所在地	東京都新宿区荒木町5番7
交通	丸ノ内線「四谷三丁目」駅 徒歩5分 都営新宿線「曙橋」駅 徒歩6分 JR中央・総武線「四ツ谷」駅、南北線「四ツ谷」駅 徒歩9分
総戸数	131戸
構造・規模	鉄筋コンクリート造 地上13階・地下1階建
敷地面積	1,822.04 m ²
建築面積	1,020.04 m ²
建築延床面積	9,998.53 m ²
事業主	阪急阪神不動産株式会社
施工会社	株式会社浅沼組 東京本店
設計・管理	株式会社日建ハウジングシステム
管理会社	株式会社阪急阪神ハウジングサポート
竣工・引渡し	竣工（2018年2月19日）・引渡し（2018年3月27日）

■ まちづくり憲章のあるニュータウン「彩都」

『まちづくり憲章のあるニュータウン「彩都」』は、当社が開発主体となって、2004年4月に、緑豊かな自然環境を生かした「国際文化公園都市」として誕生しました。

「彩都」では、街びらきの当初は開発者が中心となり、以後は開発者と自治会とが緩やかな連携を図りながら、次第に住民が街に愛着を持って、自らが街をよくしていきたいという想いが生まれるようなコミュニティ支援の実現を目指して、街の付加価値向上とブランド向上に取り組んできました。

マンション住民のみならず、戸建住民もマンションのコミュニティルームやキッチンスペースを相互利用できるルールを考案し、住民の活動をサポートするなど、コミュニティ形成のための取り組みを行ってきました。



一 審査員コメント

自治会ができることと開発者ができることを、それぞれがうまく分担しながらしなやかなまちづくりを行っている。共用施設の貸し出しなどはその例で、興味深い。開発者は、地域コミュニティの走り出しを支援することで、主体的に運営できる人や組織を育て、住民が自走できるように引き継ぎつつある。住宅地には長期的な視点が不可欠である。過去のニュータウンの成功や失敗に学び、人口減少時代のニュータウン開発として、今後も持続可能なまちづくりを期待したい。

【まちづくり憲章のあるニュータウン「彩都」】 概要

所在地	大阪府茨木市彩都あさぎ・やまぶき・栗生岩阪
交通	大阪モノレール彩都線「彩都西」駅 (阪急「梅田」駅から約33分、大阪モノレール「万博記念公園」駅から約11分)
世帯数・人口	5,095世帯・15,421人(西部地区・2018年7月現在)
開発面積	312.6ha(西部地区)
街びらき	2004年3月
応募者	彩都西小学校区まちづくり推進協議会(会長:松本和久) 阪急阪神不動産株式会社 一般社団法人コミュニティ彩都(代表理事:藤本仁良)